

地方官會議日誌第十號

二月十九日 午後第一時二十分開議 午後第五時退散
議員三十二人 欠席三番 四番 二十番 二十二番 二十五番 三十二番

七番議員ハ公務ニヨリ議長ノ許可ヲ得テ午後二時退出ス

第十二號議案第二次會(昨日之續キ)

議長ハ昨日委員ニ付シタル第三項(戶長以下給料以上費目)其報告ニヨリ過刻願付タル議案ハ全ク原文ノ通コシテ且至急ヲ要スルニ付只今再ヒ第二次會ヲ開クベキ旨ヲ陳告ス

審議ノ後十四番議員ノ戶長以下給料補助費ト修正スヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 十七人 過半数ナルヲ以テ可決ス

第四項臨時費 審議ノ後十九番議員ノ豫備費(豫算ノ不足ヲ補ヒ及ヒ豫算外ニ生シタル費用ニ充ツヘシム)修正スヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 全員 修正ニ可決ス

地方官會議日誌第十一號

二月二十日 午前第十時二十分開議 午後四時三十分退散

議員三十二人 欠席 四番 九番 十一番 十三番 二十番 二十二番 二十五番

第十二號議案第二次會(昨日之續キ)

第五項 河港道路、審議ノ後二十七番議員ノ本項削除ノ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 十人 少数ナルヲ以テ消滅トス

又十九番議員ノ本項ハ委員ニ付シテ地方稅ヲ以テ支辨スヘキモノニ非スト雖モ府縣會ノ決議ヲ經テ地方稅ヲ以テ補助スルヲ得ト云フノ主意ヲ以テ一項ヲ增加スヘシトノ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 十二人 少数ナルヲ以テ消滅トス

又本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 十四人 少数ナルヲ以テ消滅トス

因テ本案消滅ニ決ス

又本案ヲ爲メ第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 全員 乃チ第三次會ヲ開クニ決ス

第十三號議案第二次會

審議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 二十八人

又本案ノ爲メ第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 三十八人 乃第三次會ヲ開クニ決ス

第十七號議案第二次會 起立者 三十八人 乃第三次會ヲ開クニ決ス
審議ノ後 三番議員ノ本條中ルハ第四條ノ順序ニ從フハ十一字ヲ削リ註ノ臨時ノ二字ヲ豫備ニ改ムト云フ說ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 十四人 過半数ナラズ以テ可決ス

(注意) 此時現ニ著席シタルモノ二十七人ナリ故ニ過半数トナル
又本案ノ爲メ第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 全員 乃第三次會ヲ開クニ決ス

第十五號議案第三次會

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 二十五人 過半数ナルヲ以テ本案ニ決定ス

第十六號議案第三次會

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 全員 乃本案ニ決定ス

第十八號議案第一次會

異議ナキヲ以テ第二次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 二十八人 過半数ナルヲ以テ第二次會ヲ開クニ決ス

第十九號議案第一次會

異議ナキヲ以テ第二次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 全員 乃第二次會ヲ開クニ決ス

第十八號議案第二次會

審議ノ後議長ハ規則第三十六條ニ依リ十八號及ヒ十九號議案ヲ委員ニ付シテ修正セシム

ヘシト云フ意見ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 全員

乃委員ニ付スルニ決ス因テ議長ニ於テ委員ヲ選ミテ陳告ス

委員 七人

十番 十二番 十九番 廿七番 廿九番 三十一番 三十四番

第二十號議案第一次會

異議ナキヲ以テ第二次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 全員 乃第二次會ヲ開クニ決ス

第二十一號議案第一次會

異議ナキヲ以テ第二次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 二十五人 過半数ナルヲ以テ第二次會ヲ開クニ決ス

第二十號議案第二次會
 審議ノ後二十七番議員ノ本案ヨリ第廿三號議案マテ悉ク第十八號第十九號兩議案ノ修
 正委員ニ付スヘント云フ説ニ同意者ヲ起立セシム
 起立者 全員 乃チ委員コ付スルコ決ス

地方官會議日誌第十二號

内閣ヨリ下付ノ議案

布告案

備荒儲蓄法別紙ノ通相定候條來ル十三年度(本年七月一日)ヨリ施行スヘシ此旨布告候
 事

但明治八年(七月)第百二十二號逋窮民一時救助規則及同十年(九月)第六十二號布告
 凶歲租稅延納規則ハ本文施行ノ期日ヨリ廢止トス

(朱)別紙

備荒儲蓄法

- 第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民コ食料、小屋掛料、農具、
 種穀ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助スル者トス
- 第二條 各府縣ハ土地ヲ有スル人民ニ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄
 金ヲ設ク可シ但各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政
 府ヨリ配付スル金額ニ少カラサルヲ要ス
- 第三條 政府ハ毎歲百二十萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條 政府ヨリ補助スル金額ノ内三十萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九
 十萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配付スヘシ

第五條 府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數處ニ分儲シ或ハ米
 穀ヲ購入スルノ方法ハ府縣會之ヲ議決シ內務大藏兩卿ノ許可ヲ得テ府知事縣令之ヲ
 施行スヘシ但シ購入儲蓄スル米穀ハ儲蓄金ノ半額ヲ超ユヘカラス又儲蓄金ハ之ヲ公
 債證書ニ交換シ置クヘシ

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

- 第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日
 以內トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸五圓農具種穀ヲ給スルハ
 一戸十圓以內トス
- 第二 地租ヲ補助スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ム
 ル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助ニハ府縣儲蓄金ヲ供用シ其不足ナル時ハ府知事
 縣令ノ具申ニ依リ內務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ之ヲ補助スヘシ

第八條 從前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲
 蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條 各府縣內儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢査スヘシ

第十條 府知事縣令ハ毎年或ハ每半年ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ內務大藏兩卿ニ報告シ
 兩卿ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條 此方法ハ二十年間施行スル者トス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄
 金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ處置スヘシ

二月廿一日小會議ヲ開キ幹事長議長トナリ議案ヲ質問シ内閣委員之ニ答辨ス

地方官會議日誌第十三號

二月廿二日 午前第十時十七分開議 正午第十二時退散

議員三十四人 欠席 一番 九番 廿五番 三十番

第六號議案第三次會

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 三十一人 過半数ナルヲ以テ本案ニ決定ス

第十三號議案第三次會

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 全員 乃チ本案ニ決定ス

第廿四號議案第一第二第三條(委員報告)第二次會

第一條 區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及ヒ其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

增加

審議ノ後本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 三十一人 過半数ナルヲ以テ可決ス

第二條 原第一條ノ通

審議ノ後三十一番議員ノ區町村會ハ新ニ規則ヲ設クルトモ又ハ寄合相談ノ如キ從來ノ慣行ニ從フトモ其區町村ノ便宜ニ任スト雖モ必ス府知事縣令ノ認可ヲ得ヘシト修正スヘシト云フ說ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 四人 少数ナルヲ以テ消滅トス

又本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 二十八人 過半数ナルヲ以テ可決ス

第三條 原第二條ノ通

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 三十二人 過半数ナルヲ以テ可決ス

第廿四號議案第三次會

審議ノ後廿九番議員ノ前會ニ於テ消滅シタル舊第七條已下ヲ委員ニ付シテ修正スヘシト云フ說ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 二十九人 過半数ナルヲ以テ可決ス

地方官會議日誌第十四號

二月二十三日 午前第十時四十分開議 午後第五時十分退散

議員三十五人 欠席 一番 十四番 二十五番

聖上親臨議事ヲ宸聽シ給フコトヨリ議長席ヲ斜ニ左ニ避ク

號外議案(備荒儲蓄法)第一次會

審議ノ後本案ノ爲メ第二次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者 全員 乃チ第二次會ヲ開クコト決ス

號外議案(備荒儲蓄法)第二次會

布告案 前文

審議ノ後二十三番議員ノ委員ニ付シ都鄙ヲ分ツハ十九番ノ説ノ如クシ且施行期日モ本案ノ通り施行シ得ヘカラル府縣ノ爲メ別ニ其期日ヲ定ムヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 四人 少數ナルヲ以テ消滅トス

又卅番議員ノ委員ニ付シ延納期日廢止ノ期日ヲ猶豫シ更ニ適當ノ期日ヲ定ムヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 二人 少數ナルヲ以テ消滅トス

又十九番議員ノ委員ニ付シ本案ヲ修正シテ都鄙區別ヲ爲スヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 二十八

過半数ナルヲ以テ可決ス因テ議長ニ於テ委員ヲ撰ミテ陳告ス
委員 五人 十二番 十九番 廿六番 廿九番 三十一番

又十番議員ノ(本年七月一日)ヲ改メテ(十四年一月一日)トスヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 二十五人ニ過半数ナルヲ以テ可決ス

午後第二時十分還御ニ付議事ヲ中止シ同第三時十五分更ニ開議
廿九番ハ公務三十四番ハ病氣ニ付議長ノ許可ヲ得テ退出

第十二號議案第三次會

審議ノ後二十六番議員ノ補助費ノ三字削除ノ説ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 廿一人 過半数ナルヲ以テ右三字ヲ削除シテ本案ニ決定ス

地方官會議日誌第十五號

二月二十四日 午前小會議 午後第一時十分開議 同第四時廿分退散

議員二十七人 欠席 一番 八番 九番 十一番 十三番 十四番 廿三番 廿四番 廿五番 卅六番 卅七番

第八號議案第三次會

審議ノ後十八番議員ノ意義權衡ニヨリ十一年第十八號布告第十三條ヲ議題ト爲サントスル建議ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 十三人 少數ナルヲ以テ消滅トス

又本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 二十四人 過半数ナルヲ以テ本案ニ決定ス

○ 第十四號議案第三次會
異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 全員 修正案ニ決定ス

○ 第十七號議案第一次會
審議ノ後本案ノ爲メ第二次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者 四人 少數ナルヲ以テ本案消滅トス

○ 第十八號議案第二次會(廿日ノ續キ)
審議ノ後六番議員ノ委員ニ付シ制限金ヲ増シ貳拾圓又ハ貳拾五圓トスヘシト云フ説ニ
同意者ヲ起立セシム
起立者 二人 少數ナルヲ以テ消滅トス

又本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 十八人 過半数ナルヲ以テ可決ス
又本案ノ爲メ第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者 全員 第三次會ヲ開クニ決ス

○ 第十八號議案第三次會
異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 二十六人 過半数ナルヲ以テ本案ニ決定ス

○ 第十九號議案第二次會
審議ノ後本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 全員 本案ニ可決ス
又本案ノ爲メ第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者 全員 第三次會ヲ開クニ決ス

○ 第十九號議案第三次會
異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 二十六人 過半数ナルヲ以テ修正案ニ決定ス

○ 第二十號議案第二次會(廿日ノ續キ)
異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 全員 本案ニ可決ス
又本案ノ爲メ第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者 全員 第三次會ヲ開クニ決ス

○ 第二十號議案第三次會
異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 全員 本案ニ決定ス

第二十一號議案第二次會

審議ノ後三十五番議員ノ舊文ヲ復シスヘシヲスルヲ得ト修正スヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 三人 少數ナルヲ以テ消滅トス

又本案ヲ可トシ且第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 全員 本案ニ可決シ且第三次會ヲ開クニ決ス

第二十二號議案第三次會

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 二十五人 過半数ナルヲ以テ本案ニ決定ス

第二十二號議案第一次會

異議ナキヲ以テ本案ノ爲メ第二次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者 全員 第二次會ヲ開クニ決ス

第二十二號議案第二次會

異議ナキヲ以テ本案ヲ可トシ且第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム
起立者 全員 本案ニ可決シ且第三次會ヲ開クニ決ス

第二十二號議案第三次會

異議ナキヲ以テ本案ニ決定ス

第二十三號議案第一次會

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 全員

異議ナキヲ以テ本案ノ爲メ第二次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 全員 第二次會ヲ開クニ決ス

第二十三號議案第二次會

異議ナキヲ以テ本案ヲ可トシ且第三次會ヲ開クヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者 全員 本案ニ可決シ且第三次會ヲ開クニ決ス

第二十三號議案第三次會

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 全員 本案ニ決定ス

地方官會議日誌第十六號

二月廿五日 午前第九時四十分開議 午後第四時退散

議員三十五人 欠席 十三番 二十番 二十五番

三十六番病氣ニ付議長ノ許可ヲ得テ午後退出

○ 第二十四號議案(委員報告)第三次會(廿二日ノ續キ)

異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 全員 乃チ修正案ニ決定ス

號外議案(備荒儲蓄法)第二次會(廿三日ノ續キ)

第一條 審議ノ後十二番議員ノ委員ニ付シ備荒儲蓄法ノ題號ヲ改定スベシト云フ說ニ
同意者ヲ起立セシム

起立者 十九人

又二十九番議員ノ委員ニ付シ十二番ノ說ノ如ク備荒儲蓄法ノ題號ヲ改定シ又十番ノ說
ノ如ク補助又ハ貸與スルモノト修正シ且地租ノ下ニ分註ヲ加ヘ國稅地方稅共補助ス
ルノ意ヲ明揭スヘシト云フ說ニ同意者ヲ起立セシム

起立者 二十六人

又十番議員ノ補助シ又ハ貸與スルモノト修正スベシト云フ說ニ同意者ヲ起立セシム
何レモ過半數ナルヲ以テ可決シ前文ノ修正委員ニ付ス

起立者 二十三人

第二條 審議ノ後三十一番議員ノ委員ニ付シ設クヘシノ下ニ尤土地ヲ有セサル者ト雖
モ公儲ノ幾分ヲ助ケムルヲ得ト云フ意味ヲ加フヘシトノ說ニ同意者ヲ起立セシム

又本案ニ同意者ヲ起立セシム 十三人 少數ナルヲ以テ消滅トス
起立者 二十八 過半數ナルヲ以テ可決ス

第三條 異議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 全員 本案ニ可決ス

第四條 審議ノ後本案ニ同意者ヲ起立セシム
起立者 二十九人 過半數ナルヲ以テ可決ス

第五條 審議未ク終ラズ

地方官會議日誌第十七號

二月廿六日 午前第九時四十五分開議 午後第二時三十分退散
議員三十八人

號外議案(備荒儲蓄法)第二次會(昨日ノ續キ)

第五條(昨日ノ續キ)
審議ノ後十二番議員ノ府縣會云々施行スヘシマテ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ
其議決ヲ取リ内務大藏兩府ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシト修正シ但以下削
除ノ說ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

十七人

少數ナルヲ以テ消滅トス

又十九番議員ノ府縣會云々施行スヘシマテ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取リ内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシト修正シ但シ云々超ユヘカラスマテ削除ノ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

十二人

少數ナルヲ以テ消滅トス

又二十二番議員ノ又以下削除ノ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

三人

少數ナルヲ以テ消滅トス

又三十一番議員ノ府縣會云々施行スヘシマテ府知事縣令之ヲ府縣會ニ付テ議決セシメ之ヲ内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシト修正スヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

十人

少數ナルヲ以テ消滅トス

又本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

三十四人

過半数ナルヲ以テ可決ス

第六條 審議ノ後三十一番議員ノ本條削除ノ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

九人

少數ナルヲ以テ消滅トス

又十二番議員ノ第一項一戸五圓云々ヲ改メテ一戸十圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸二十圓以内トシ第二項補助ノ下ニ及貸與ノ三字ヲ加フヘシト云フ説ニ同意者ヲ

起立者

十人

少數ナルヲ以テ消滅トス

又本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

二十八人

過半数ナルヲ以テ可決ス

第七條 審議ノ後十七番議員ノ本條ヲ改正シテ各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ニ於テ一年ノ儲蓄金三分二以上ヲ供用支出スルキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシト作ルヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

三十一人

過半数ナルヲ以テ可決ス

第八條 發議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

全員

本案ニ可決ス

第九條 發議ナキヲ以テ本案ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

全員

本案ニ可決ス

第十條 審議ノ後十四番議員ノ毎年或ハ毎半年ヲ改メテ毎年七月中ニ作ルヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム

起立者

二十人

過半数ナルヲ以テ可決ス

第十一條 審議ノ後廿七番議員ノ之ヲ處置スヘシヲ其保存方法ヲ定ムヘント改ムヘシ
○ 起立者 十七人 少數ナルヲ以テ消滅トス

又十二番議員ノ以テヲ經テコ作ルヘシト云フ説ニ同意者ヲ起立セシム
○ 起立者 十二人 少數ナルヲ以テ消滅トス

又本案ニ同意者ヲ起立セシム
○ 起立者 廿九人 過半数ナルヲ以テ可決ス

布告案(前文委員報告)
審議ノ後本案ニ同意者ヲ起立セシム
○ 起立者 三十六人 過半数ナルヲ以テ可決ス

第一條(委員報告)
審議ノ後本案ニ同意者ヲ起立セシム
○ 起立者 三十六人 過半数ナルヲ以テ可決ス

又本案ノ爲メ第三次會ヲ開クヲ可トスルモノヲ起立セシム
○ 起立者 全員

第三次會ヲ開クニ決ス

號外議案(備荒儲蓄法)第三次會
審議ノ後十二番議員ノ第五條府縣會云々施行スヘシヲ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會

○ 付シ其議決ヲ取リ内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシトシ但以下
○ 削除ノ説ニ同意者ヲ起立セシム
○ 起立者 三十三人

又同議員ノ第六條第一項一戸五圓云々ヲ改メテ一戸十圓以內農具料種穀料ヲ給スルハ
○ 一戸二十圓以內トスニ作リ第二項補助ノ下ニ及ヒ支出ノ四字ヲ加フルノ説ニ同意者ヲ
○ 起立セシム
○ 起立者 廿三人

又廿七番議員ノ第十一條之ヲ處置スヘシヲ改メテ其保存方法ヲ定ムヘシコ作ルノ説ニ
○ 同意者ヲ起立セシム
○ 起立者 廿八人

右何レモ過半数ナルヲ以テ可決シ本案修正ニ決定ス因テ議長ハ本年下付ノ議案ハ全ク
○ 決了シタルニヨリ此趣ヲ上奏スヘキ旨ヲ述フ

地方官會議日誌第十八號

二月廿八日

本日閉院式行ハセラルニ付 聖上本院ニ臨幸シ玉ヲ其式本月五日開院式ニ異ナラズ
議長河野敏謙及議員御用掛諸官員先着ス議員穴戶昌、斯波有造、關口隆吉、原保太郎、島
惟精、所勞ニ付不參

二品有栖川煇仁親王、太政大臣三條實美、參議大隈重信、參議大木喬任、參議寺島宗則、參
議山縣有朋、參議伊藤博文、參議山田顯義、議官山口尙芳、大藏大輔松方正義、陸軍中將大

山巖、工部大輔山尾庸三、司法大輔玉乃世履、内務少輔林友幸、文部少輔神田孝平、及内閣書記官、太政官書記官、警視官、式部寮官員各大禮服用ヲテ先着ス。○官省院使府縣屬官郡區史、府縣會議員等モ亦拜觀トシテ來集ス。二品伏見貞愛親王、三品北白川能久親王、及右大臣岩倉具視、參議西鄉從道、宮内卿德大寺實則、宮内少輔土方久元以下供奉ス。午前第十時十五分議長議員等議事堂ニ排列シ禮ヲ行フ。勅語左ノ如シ。會議終ルヲ告グ朕汝等ノ能ク職ヲ盡シ言ヲ竭スヲ嘉ミス。禮畢ル時ニ午前十時二十五分。

○〔太政官〕 御 達 十三年二月廿七日 官省院使府縣 明廿八日地方官會議閉院式被爲行候條此旨相達候事

○〔華族部長局〕 御 達 十三年三月六日 各宗族長各管長 地方官會議御用濟ニ付當局來ル八日寶田町貳番地ニ引移候此旨該族管中ニ通知可致此段相達候也

○〔陸軍省〕 御 達 十三年二月十二日 陸軍一般 諸生徒并下士兵卒演說講談會等ニ聽聞ノ爲罷越候儀ハ不相成等ニ候處近來竊ニ右等ノ場所ニ立入候者モ有之哉ニ相聞不都合ノ事ニ候條自今心得違ノ者無之極嚴重相達可申此旨相達候事

○〔陸軍省〕 御 達 各 隊 本年常備滿期兵從前退營期年限ヨリ若干日以前ニ引揚歸郷爲致候ニ付テハ其減額金ハ

納返可致此旨相達候事 但減額金至急取調會計局ニ可差出事

○〔陸軍省〕 御 達 十三年二月 本年達乙第七号ヲ以テ近衛兵編入除隊年記表相達候就テハ其臺ニ於テ昨十二年今般近衛隊ニ臨時編入申付候條近衛兵編制規則第一條ニ準シ撰擧ノ上早々近衛局ニ可引渡此旨相達候事 步兵百二十八人 騎兵三十人 砲兵十四人内(砲兵卒七人 駁卒七人) 工兵九人

○〔陸軍省〕 御 達 十三年二月 後備軍服役中心得

第一條 豫備軍服役中ハ平常家居スル者ナレハ左ノ條々篤ト相心得軍人タル譽レテ失ハサル様可致事
第二條 常備軍三ヶ年ノ役ヲ終リ除隊ノ時ヨリ向三ヶ年ヲ豫備軍トシ同軍滿期ノ後四ヶ年ヲ後備ノ服役ト可相心得事
第三條 豫備軍服役中ハ自己所管府縣ノ外ニ出ルヲ禁ス若シ止テ得ス他ノ府縣ニ出稼又ハ寄留セント欲スル者ハ其筋ニ願出開屆濟他出可致事
但本文願出ルハ寄留ノ年月ヲ定メ召集ニ支障無之應募可致旨書認可申事
第四條 同軍服役中ハ一ヶ年一度ノ操練演習アリ因テ召集時日凡三十日前ニ布達スルモノトス若シ期ニ後ノ到着スル者ハ罰科申付候事
但非常ノキハ本文ノ外臨時ニ召集セラルト可相心得事
第五條 後備軍服役中所用アリ管外ニ出ルキハ其往先キ共其筋ヲ歷テ後備軍司令官ニ可届出事

第六條 同軍モ一ケ年一度ノ演習召集ヲ要スル者トス(當分之ヲ施行セス)就中非常ノ

時ハ命令次第速ニ應募可致事

但屆濟他管ニ在ル者モ又非常ノ時ハ駐在曹長ヨリ飯家ヲ命シ召集ヲ達スレハ速ニ應募可致事

第七條 豫備并ニ後備軍服役中逃亡又ハ擅ニ他管ニ出ル者軍律ニ屬スルノ事ナラス事由ニ依リ服役ノ期モ亦延セラル可キモノト可相心得事

但家出致シ數十日ヲ越ヘ送ニ身元ヨリ逃亡ノ届アル者ハ管内ノ徘徊ナル軍律ニ可處事

第八條 兼テ附與セラレタル番号割符并軍隊手帳大切ニ所持スヘシ若シ遺失スレハ罰科申付候事

陸軍省 御達 十三年二月廿六日 各隊

戸山學校生徒トシテ近衛并各鎮台ヨリ別紙之通同校規則ニ基キ撰拔來ル四月二十五日迄ニ可差出此旨相達候事

但々學生名簿寫シハ四月廿日迄ニ各諸管ヨリ同校ヘ可差出事 (別紙略ス)

陸軍省 御達 十三年二月廿七日 各隊

將校馬飼料ノ儀端日數之分及増飼料支給返納等自今別紙之通可取計此旨相達候事

一馬疋率入之月日其當日ヨリ手放シノ節ハ其前日迄日割ヲ以テ一日金三十九錢五厘宛支給スヘシ

陸軍省 御達 十三年二月廿八日 各隊

靜岡縣下駿河遠江兩國々界ノ儀第一及第三軍管之區域ニ有之候所遠江國榛原郡源助村外十二村駿河國志太郡ノ紐替右源助村以東大井川中央ヲ以テ駿河遠江之國界ト被定候旨昨明治十二年二月太政官ヨリ靜岡縣ヘ御達相成候就テハ同村ノ者ニシテ現今豫備軍服役中ノ者ハ直ニ第一軍管ヘ轉籍シ常備兵ハ滿期ノ節第一軍管豫備軍ヘ編入スベキ儀ト可相心得此旨相達候事

陸軍省 御達 十三年二月廿八日

本年乙第四號ヲ以テ相達候輜重輸卒在營中給與之儀別紙之通相達候條此旨相達候事 (別紙)

一輜重輸卒在營中日給及ヒ食料ハ各兵生兵ト同様給與スヘシ

一修理費消耗品永續料並ニ被服諸品ハ別冊表ノ通り給與スヘシ

但手帖ヲ除クノ外被服諸品ハ在庫品(新古取交)ヲ以テ給與ニ充ツルモノトス

官内省 御達 十三年三月三日 省院使局

吹上濱離宮兩禁苑大臣參議勅任官及各國公使等ヘ拜觀之儀別紙之通相定メ來ル五日ヨリ差許候條此旨勅任官之向ヘ御通達有之度此段及御回達候也

追テ觀苑証札八枚御申越次第可及御送付候間夫々御配布有之度此段添テ申入候也

吹上濱離宮兩禁苑大臣參議勅任官及各國公使拜觀規則

一吹上禁苑ハ毎月日曜日水曜日金曜日晴雨ニ拘ラヌ觀苑差許候事

一濱離宮ハ毎年四月十五日ヨリ八月十五日迄ノ間毎火曜日木曜日土曜日晴雨ニ拘ラヌ觀苑差許候事 但吹上ハ諏訪ノ御茶屋濱離宮ハ松ノ御茶屋ヲ休息所ニ設置候事

一 觀苑時限ハ毎年五月ヨリ八月マテハ午前五時ヨリ午後六時マテ九月ヨリ四月マテハ午前七時ヨリ午後四時マテテ限リ候事

一 觀苑ヲ得ルモノハ大臣參議勅任官各國公使及前書ノ家族并公使館屬員ニ限ル可シ尤婢僕召連ハ勝手タル可キ事

一 觀苑之節ハ兼テ宮内省ヨリ渡置處ノ左ノ特許觀苑ノ證ヲ一人一枚ツ、所持シ出入之都度吹上ハ半藏御門内吹上御庭入口御門ニ於テ番兵ヘ相示シ濱離宮ハ表門ニ於テ宮内省出張官員ニ相示シ通行致ス可キ事

一 臨期御差支之節ハ拜觀差留候事アルヘシ尤有之節ハ入口御門ヘ標掲候事

一 樹木草花ヲ折採リ魚鳥ヲ獵獲并犬牽入等禁止之事

〔宮内省〕 御 達 十三年三月十三日 省院使局

今般吹上濱離宮兩禁苑大臣參議勅任官及各國公使等ヘ拜觀被差許候儀ハ特別之 思食ヲ以御差許相成候事ニ付右特許觀苑之證ハ觀苑ヲ得ル者之外獵ニ他人ヘ貸渡候様之義ハ有之間敷筈ニ候得共自然右様之義等有之候テハ不都合ニ候間爲念豫テ其向ヘ御心得置有之度此段及御回達候也

〔宮内省〕 御 達 十三年三月五日 華族部長局

有位華族各自ノ寫眞 御手許ヘ差出候様昨明治十二年十二月中相達置候ニ付テハ總テ別紙心得書ニ照準撮影進達可致候此段及追達候也

追テ在東京藤香間詰華族ノ義ハ當省ヨリ直ニ相達候ニ付達ニ不及且衆華族之向ハ來ル九日ヨリ印刷局ヘ出頭可寫取此段添テ相達候也

有位華族撮影心得概記

一 撮影ハ各自四枚ツ、部長局ヘ差出シ該局ヨリ目錄ヲ添ヘ本省ヘ差出スヘシ

但四枚ノ内一枚ハ寫取ノ儘ニテ臺紙ヘ貼付ニ及ハス

一 奏任官并准奏任以上ノ輩ハ奉職ノ廳ヨリ差出スモノトス其判任以下ハ本族ニ據リ差出スヘシ

一 撮影ハ第一圖ノ如ク半身ヲ顯シ着裝ハ成ル可ク洋服ヲ要スト雖モ故アリテ他ノ服ヲ着スルモ苦シカラス

一 臺紙ヘ貼付ノ分(三枚共)ハ第二圖ノ如ク撮影ヘ位階勳等氏名年齢等正楷コテ部長局ニ於テ記載スヘシ

但撮影後未タ記名致サ、ル内位階ヲ進メラレ若シクハ奏任官准奏任ニ命セラレタル者ハ其命セラレタル官位等ヲ記入スヘシ

一事故アリテ撮影シ能ハサル者ハ其事由部長局ヲ經テ本省ヘ申出ヘシ

一 在京ノ輩ハ大藏省印刷局ニ於テ撮影スヘシ尤日限ハ來ル九日ヨリ日々二十名宛印刷局ヘ出頭撮影スヘシ

但其費用ハ本省ヨリ印刷局ヘ償還致スヘシ

一 各地方住居ノ輩ハ所在地ニ於テ撮影シ其費用ハ本省ヨリ可下渡ニ付追テ實際ノ費用高部長局ヘ申出該局ニ於テ調査ノ上取總メ進達致スヘシ (第一圖第二圖離形略ス)

〔警視局〕 御 達 十三年二月廿一日 各 分 署

評論圖目新誌自今發行禁止申付第二號發賣差止候條此旨相達候事

但既ニ刊行ノ分悉皆本署ヘ可差出候旨相達候條此旨可相心得事

〔警視局〕 御 達 十三年二月 第五方面一分署

其署內在來之火之見檢一定番ヲ以テ非常出火之際信号施行候條此旨相達候事

〔警視局〕御達 十三年三月一日 第五方面一分署
過日相達置候通火ノ見定番其署内へ設置候付テハ信号打方ハ勿論不取締無之樣監督指揮可致此旨相達候事

〔警視局〕御達 十三年三月十五日 各課各分署
明治十一年十二月第百八十一號ヲ以テ相達候警部補巡查諸届證書左ノ通追加候條此旨相達候事

一何月何日教習所入

何ノ部 何等巡查 何ノ某

一何月何日復署

同 同

一何月何日家督相續或ハ分家候旨届出ル

同 同

〔警視局〕御達 十三年三月十五日 各分署
明治十一年四月番外ヲ以テ交番所巡查定員ノ儀相達置候處今般更ニ左ノ通改正候條此旨相達候事

交番所巡查定員 一等巡查一名 二等巡查五名 三等巡查四名 四等巡查一名

〔警視局〕御達 十三年三月十五日 各分署
巡查規則第二十二條左ノ通改正候條此旨相達候事

第三十二條 狂犬又ハ病犬ノ害ヲ爲ス可シト看認ムル者アルキハ直ニ之ヲ撲殺シ其旨該署へ申告スヘシ

〔警視局〕御達 十三年三月十六日 各分署
東京府平民赤坂區赤坂田町三丁目十一番地三宅虎太編纂日本國會纂篇中福岡縣有志人民國會開設建言書發賣差止候條此旨爲心得相達候事

〔警視局〕御達 十三年三月十八日 各分署
犯罪人原籍調書之儀本犯一名ノミヲ記載送附之分往々有之右コテハ處分方差問候趣ヲ以テ東京裁判所刑事課ヨリ協議致來候條今後ハ必ス本犯戶籍全面記載口供へ相添へ御送致相成候様致度候也

〔東京府〕御達 十三年二月十四日 郡區役所戶長役場
徵兵令第三十二條ニ第二十八條第一項乃至第六項第八項ニ當ル者並ニ第二十九條第一項第二項第四項第九項第三十一條ニ當ル者ハ常備年期ノ第三年檢査時限ニ至ル迄ニ其名稱ヲ罷ノタル者ハ更ニ徵集ニ應セシム云々ト有之就テハ本年以後適齡ノ者ハ前條ニ據リ可取扱ハ勿論ニ候得共本令改正前則チ明治十年以來適齡ノ者ニテ客歲十月二十七日後ニ至リ其名稱ヲ罷タル者ハ常備年期ノ三年内ナルヲ以テ徵集スヘキ筈ニ候條右相當ノ者取調至急人名中出ヘシ此旨相達候事

〔東京府〕御達 十三年二月十六日 郡區役所

公立中學校建設地ノ儀中學ハ千坪以内小學ハ五百坪以内無代價下ク渡來候處昨十二年(九月)教育令公布相成候コ付テハ自今專門學校之儀モ同様千坪以内ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシテ無代價下ク渡可相成等ニ候條爲心得此旨相達候事

〔東京府〕御達 十三年二月二十日 郡區役所戸長役場

毎年米麥雜穀類ノ數量及ビ播種以後收穫季節ニ至ル迄水旱其ノ他故障ノ有無等實際ノ景况別紙甲乙雛形ニ照準取調甲号ハ毎年一月十日限り乙号ハ同六月十日限り無違滞可差出此旨相達候事 (別紙雛形容ス)

〔東京府〕錄事 十三年二月

十五區内火災救助心得

第一條 十五區内出火ノ節ハ左ノ各條ニ照シ炊出シテ給與シ又ハ避難所ヲ設クヘシ

第二條 炊出シハ第一延焼三時ニ及トキ第二三時間ニ至ラサルモ火勢猛烈燒延敷町ニ及フヘキ景况アルトキ給與スヘシ

第三條 炊出シハ本廳構内ニ於テ現場ニ送致シ罹災人民ニ配與スヘシ

但現場遠隔ナルトキハ便宜其場所ヲ定ムヘシ

第四條 第二條ノ場合ニ於テ罹災窮民其依頼スル所ナク雨露ヲ凌コモ差支ル景况アル

時ハ本廳ニ於テ寺院其他ノ建物ヲ借り又ハ假小屋ヲ設ケ避難場ヲ設ケ入場ヲ許

スルコトヲ給與スヘシ

第五條 炊出シノ場合ニ於テ現場ノ景况ニ依リ區長ヨリ請求スルトキハ臨時ノ議ヲ以テ

本文ニ準スルコトヲ行フヘシ

第五條 避難場ハ通常一週間ヲ以テ之ヲ閉ツルモ雖モ入場窮民ノ實況ニ依リ隨時伸縮スルコトヲ行フヘシ

第六條 避難場ハ入場窮民ノ多寡ニ依リ僚屬數名ヲ派出シ救助一切ノ事務ヲ調理セシ

メ又府立病院醫員一名ハ場窮民儘少ナレバ之ヲ出シテ時々巡視ニ止リ患者ヲ治療

セシム

第七條 入場窮民ノ帶患ノ者其經症ナルハ場中ニ於テ治療セシメ重症ナルハ醫員ノ診

斷ヲ以テ府立病院ニ移スヘシ

第八條 炊出シ又ハ避難場設置ノ事ハ本廳庶務會計兩課ノ負擔トシ豫メ其準備ナシ

事アルノ日モ官ノ指揮ヲ以テ着手スヘシ

但炊出シハ長官參廳ノ以前ニアリテ第二條ノ場合アルトキハ兩課ニ於テ先ツ着手シ

迅速其旨ヲ開申スヘシ

〔東京府〕番外 十三年二月廿一日 郡區役所

別冊起業公債并起業景况第二回報告ノ儀ハ該公債借主及ビ有志輩ノ一覽ヲ要スルモノ

ニテ頒布方大藏省ヨリ依頼有之候就テハ役所ニ備置ノモノテハ普ク一覽モ行届難キニ

付適宜ノ方法ヲ設ケ一般ニ周知候様取計フヘシ尤復寫刊行等ニハ及ハス候條此旨相達

候事 (別冊略ス)

〔東京府〕番外 十三年二月廿四日 郡區役所戸長役場

巡查ニ於テ撲殺シタル狂犬ノ儀ハ是迄其通知ニヨリ區役所又ハ戸長役場ニ於テ取除來

候處實際ニ不便不少儀ニ付自今撲殺獸並斃獸共監視各分署ニ於テ直ニ人夫ヲ使役爲取

除其賃錢ハ分署ニ於テ檢印雇夫ヲシテ區役所又ハ戸長役場ニ受取方爲申出候等兩廳協

議相定候條此旨相達候事

〔東京府〕 御達

十三年二月廿六日

郡區役所

愛知縣春日井郡ヲ東西二郡ニ分テ則チ春日井郡役所ヲ勝川村ニ西春日井郡役所ヲ下小田井村ニ置キ并和歌山縣郡區長委任條件中第廿六(藥舖營業願ノ事)ヲ刪除シ順次各條操上候趣通知有之候條此旨相達候事

〔東京府〕 御達

十三年三月六日

郡區役所

開拓使函館支廳管内本年一月一日ヨリ郡制施行郡區長ヘ左ノ通委任候趣通知有之候條此旨相達候事 (別紙略之)

〔東京府〕 御達

十三年三月十日

郡區役所

即今神奈川縣下其他ノ地方ヨリ於テ天然痘流行ノ趣ニ付此際一層注意初種再三種ノ別ナク種痘候標郡區内ヘ告諭スヘシ此旨相達候事

〔東京府〕 御達

十三年三月

養育院

其院條規事務順序第一條左之通改正致スヘシ此旨相達候事

第一條 窮民入院無告ノ窮民入院ヲ願フコト其親戚又ハ地主差配人等ヨリ自活ナリ難ク或ハ他ヨリ養フベキ路ナキヲ保認シ連印シタル書面ヲ區ハ區役所ヘ郡ハ戶長役場ニ出シ區戶長之ニ與書シテ府廳ニ出シ府廳之ヲ許可セラレシ書面ヲ認シテ入院セシム

〔官内省ヨリ太政官ヘ伺〕

御墓道模樣替ニ付民有地買上ノ事

静岡縣下遠江國引佐郡奥山村無文元壽禪師御墓道模樣替ニ付民有地買上ノ義同縣ヨリ別紙甲印ノ通伺出候ニ付調査候處在來ノ儘コトハ不都合ニ付内務省及照會候處別紙乙印ノ通り回答有之候就テハ同所方廣寺私有地内ノ反別一畝十七步地價金四拾五錢ヲ以テ於當省買上申度仍テ書類相副此段相伺候也 (別紙略之)

〔指令〕 伺ノ趣聞届候事

〔熊本縣ヨリ内務省ヘ伺〕

第二回勸業博覽會出品經費之件

明治十四年内國勸業博覽會ニ付於各廳切要之物品書籍等致出品候費用ハ各廳經費ヨリ支出可致旨客年太政官第三十五號御達有之候處右者該廳之備品等出品ニ係リタル追送荷造等ノ費用ニ限リ候哉或ハ管内人民ニ於テ必用之新發明之器械及改良品等尤辨益ナルモノト見認候モ該製造ノ原費ニ苦ニ自費出品ノ本意ヲ達セサル分ハ當廳經費ヲ以テ買上致出品候而モ可然哉此段相伺候條至急御指令相成度候也

〔指令〕 伺之趣縣廳備品買上之分共該出品ニ係ル一切之費用ハ都テ定額常費之内ヨリ支辨候儀ト可相心得且買上品之儀ハ客歲第三十五號公達ニ相當候品ハ伺之通取計不苦候事

〔山口縣ヨリ内務大藏兩省ヘ伺〕

博覽會出品概目錄差出後追加出願ノ事

明治十四年第二回内國勸業博覽會ヘ出品概目錄差出ノ期ハ來ル三月限ニ有之候ニ付テハ右期限迄ニハ概目錄可差出候ハ勿論ニ候得共或ハ不得止事情有之追加出品願出候モ可有之哉モ難計萬一右之場合ニ立至リ候ハ、可然御聞置被下度此段豫テ相願置候也

〔指令〕 書面之趣ハ出品概目錄差出候後ニ至リ若シ不得止事情有之追加出品願出候モ有之候ハ、其時々更ニ可申出事

〔和歌山縣ヨリ内務大藏兩省ヘ伺〕

看護人給料ノ件

第二回内國勸業博覽會開設中列品看護人給料旅費等官私給ノ區別ハ未タ何等ノ御達無之候處目今明治十三年度稅ヲ以テ支辨スヘキ經費豫算ノ都合モ有之候ニ付テハ官私給ノ區別速ニ御指令相成度此段相伺候也

〔指令〕何之趣ハ出品人自辨ノ管ニ候得共追テ何等ノ儀可相達候事

〔福島縣ヨリ内務大藏兩省ヘ伺〕内國勸業博覽會費用之件

來ル明治十四年第二回内國勸業博覽會設立ニ付各縣ニ於テ勸業上切要之物品書類等該會事務局ヘ照會出品可致尤右ノ屬スル費用ハ各縣經費ヨリ支出候儀ト可相心得旨客歲第三十五號公達ニ依リ夫々着手費用ヲ要シ候處右費途十二年度豫算ニ無之全ク臨時之儀ニ付豫備金ヲ以テ繰替置追テ御下金請求候儀ト可相心得哉若亦定額常費ヲ以テ支拂候筋ニ候哉然ルモハ近來物價非常ニ騰貴シ隨テ一層注意節儉ヲ加候得共目今ノ所ニテハ自然不足可相立勢ヒコ有之然ルニ豫算外之費用等ハ到底可取賄見込無之候條歲尾不足相生シ候節ハ御下渡相成度此段併テ相伺候也

〔指令〕伺之趣其縣定額常費之内ヲ以テ支辨候儀ト可心得且不足相生シ候節下金ノ義ハ難聞届候事

〔神奈川縣外九縣ヨリ内國勸業博覽會事務局ヘ伺〕

一温石化石板擬石板、絹綿交織、床等ノ裝飾、剪絲花、一貫張器物、學校及ヒ教育表、神佛等ノ彫刻像(妙技ヲ主トセサルモノ)、押繪、甘蔗油、甘蔗、右物品ハ何區類ニ可組込哉一製茶節ノ類、烟草刻具、生糸坐操、糸曳車、綿線右五品ノ如キハ第五區第七類ノ三ニ組入ルヘキ見込ニ候處福島縣伺儀ハ機械ノ部ニ屬スルトノ御指令ニ依リ聊カ疑惑ヲ生ス何レノ區類ニ可組込哉

右至急御指揮有之度此段相伺候也

〔指令〕温石第一區一類ノ六、化石第貳區十四類ノ五、石板擬石板第二區十四類ノ一、絹綿交織糸絹ナラハ第二區十類ノ八又綿ナラハ全類ノ四、剪絲花床飾ニテモ第貳區十一類ノ三、一貫張其質ヲ示スモノハ第二區十二類ノ三其用ヲ示ス分ハ各其區類

一収ム學校及ヒ教育表第二區十四類ノ三、神佛等ノ彫刻像第二區九類ノ一、押繪玩弄物即チ羽子板ノ類ナラハ第二區十一類ノ六其他ハ全類ノ七、甘蔗油甘蔗ニ添エテ出スモノ亦持ニ苗ハ出スモノ第五區一類ノ二、甘蔗第五區一類ノ二、製茶節ノ類其他四品ハ第五區八類ノ三ニ収ムヘシ儀ハ紡織機械ニ附屬セシモノ故ニ四區三類ニ収ムモノトス

〔神奈川埼玉群馬栃木山梨静岡石川高知廣島福岡大分縣ヨリ博覽會事務局ヘ伺〕

明治十四年第二回内國勸業博覽會規則第二十八條管理入ノ義ハ明文無之ニ付出品人負擔スヘキモノトモ難確認候得共若シ之ヲ出品者ヨリ差出スルハ自今各地出品者ノ情况ヲ觀察スルニ迎モ行届キ難ク却テ出品ヲ忌避スルノ恐少カラズ且又飾臺飾箱等總テ出品人自辨タル規則ニ候處今回ノ義ハ各品其種類ニ因リテ陳列スヘキ方法ニ付設令一ノ飾臺飾箱ト雖モ數十品數百人ノ出品者協議ノ上ニアラザレバ調製致シ難ク是レ錯雜困難ナルノヨナラズ決シテ實際ニ行ハルベカラサル義ト相考候條出品人於テ飾箱又ハ管理自辨ヲ望ム者ノ外ハ右兩條トモ總テ貴局ニ於テ御用意ノ事ニ御確定速ニ各府縣ヘ御達相成候様希望仕候不然ハ時日押移リ着手順序及費用ノ豫算モ相立難ク甚ダ差支罷在候幸ヒ此節出京ノ向モ有之候ニ付前件御都合振親シク相伺置度此段相伺候也

〔指令〕書面管理入ノ義ハ目今詮議中ニ付追テ何分ノ議可相達飾臺飾箱等ハ出品人自辨ニ相製スルモノ、外部ヲ貸與可致事

〔神田區ヨリ東京府ヘ伺〕

雇人請宿理髮店湯屋税金領収證手續改正 雇人請宿理髮店税金上納ノ節取締或ハ年行事等ニ於テ取纏メ上納致シ該領収証ハ各雇人ニ銘々ニ相渡シ來候ニ付取扱上自然繁忙ニ涉リ夫ガ爲メ出頭人ハ時間ヲ徒過候致

儀ニ付公私便宜ノ爲メ自今右手續ヲ相應シ合金領收證ヲ取締或ハ年行事ニ交付候手續
ニ改正致度候存ハ下官限リ取扱不苦候儀ト存候得共爲念相伺候條至急何分ノ御指揮相
仰候也 但本文不苦儀ニ候ハ、湯屋ノ儀モ本文同様取計候見込ニ有之候
〔指令〕 書面伺之通リ

○〔橋本縣委院ヨリ内國勸業博覽會事務省へ伺〕

一 蠶卵紙製造者數名合併裝觀ヲ要スル爲メ一個ノ額面ニ仕立六七尺方面ノ容積ヲ要ス
ルモ陳列場ノ差支有之問敷哉
一 清酒及ビ火酒等ノ類裝觀ヲ要シ一名ニテ同酒數百瓶ヲ出品候テ差支有之問敷哉
一 麻苧等ノ如キモノ産地ニ因リ精粗適用ヲ異ニスルモノハ無論ノ儀ニ候得共假令ハ網
麻ト稱スル粗品産地ニ於テ各村ヨリ出品願出同品種數多ニ至ル等ノ如キハ同種品ト
雖モ自然製造ノ功拙モ有之爲メニ競争スルモノニ有之候得共願ニ任セ出品致サセ度
見込可然哉

右ハ地方官心得書ニ照シ少シク疑念モ有之ニ付至急御指揮被下度相伺候也

〔指令〕 第一條 御申出ノ通ニテ差支無之候

第二條 清酒火酒等ノ類壹名ニテ數百品スルモ數坪ヲ要ヒザレハ差支無之候

第三條 御見込ノ通リニテ可然候

○〔沖繩縣ヨリ其筋へ伺〕

當管下金武間切貢租米雜石并砂糖徵收之節運輸之儀内地ト異リ道路險阻ニシテ陸送難
相成回漕ナラテハ難取計從來舊藩中ニテ該間切官山用木之内用材之見込無之分無代價
下々渡貨物運送之爲五反帆船壹艘設ケ有之造船之儀ハ民費謀出相成居候處該舟朽腐之

上本年一月二十六日夜颶風之際破損ニ及ビ連モ繕修難相成依之舊慣通り用材下々渡之
儀方今願出候間早速間切詰官員出張見分爲致候處相違無之廢物ニ屬シ此段出張官員
リ申立既ニ本年收入ニ差掛リ一時差間ノ趣ニテ漸ク雇舟ヲ以テ運輸之都台ヲ計リ候得
共到底該舟取設不申テハ不辨理不勘事實不得止事ニ付明治七年御省乙第十六号御達之
旨モ有之況ヤ此件之如キハ御許可相成問敷哉之筋ニモ被存候處置縣後未タ日淺ク内地
御成規ニシテ準據難致筋モ有之追々成規遵奉致候條輸運可致儀ニ候得共此際ノ議ハ特
別之御詮議ヲ以舊慣ニ據リ官山伐木無代價下與之儀御許可相成度然ハ上ハ見分ノ上將
來用材ノ見込無之生立宜シカラサル分伐採下與製造之義ハ從前之通り付與可申ト存候
此段別紙願書相添相伺候早々御指揮被下度候也(別紙略之)

別申本議類似ノ如キ事件今後モ可申出モ難計其時々ニ至リ屢々伺テ經施行致候テハ
海路遠隔之地事柄ニ寄テハ事務上ニ差支候儀ニ付舊慣ニ據リ事實不得止件ハ伺テ經
ニ當分之内滴宜施行致度此段併テ伺置候也
〔指令〕 書面伺之趣特別ヲ以テ聞届候事

○〔高知縣ヨリ内務省へ伺〕

十二年度下半年分地方稅徵收之儀會議ノ決ニ依テ施行致候處縣會之義漸ク客年十二月
下旬ヲ以テ閉場候運ヒニ付本年一月ヨリ支出可致分ハ徵收難取調依テ徵收時日ヲ計リ
差向キ右郡役所經費一月二分借入金ヲ以テ支辨ノ儀ハ縣會ノ決ニ依リ一月經費概算
ヲ以テ縣下各銀行ヨリ當應ニ借入金支辨可致候處尙又二月分モ相當借入之積リニ有之候
間此段御聞置相成度候也
〔指令〕 書面之趣聞届候事

○〔岐阜縣ヨリ陸軍省へ伺〕

徵兵令ノ件

第一條 本令第二十八條第一項但書ニ當ル者ハ縱令女戸主隠居シ養子或ハ相續人ニシテ其跡ヲ請ケタル女戸主ト雖モ同様取調可然哉

第二條 年齢五十歳未満ノ者ノ嗣子癡疾ナルアリ嗣子ヲ以テスレハ平時免役ニシテ第二豫備徵兵簿ヘ記載スヘキモノ有之癡疾ヲ以テスレハ下検査ノ上除名簿ヘ記載スヘキモノ有之候依テ兩簿ノ内何レヘ記載致シ可然哉

第三條 本令第二十八條第七項府縣會議員ハ國民軍ノ外兵役ヲ免トス有之處該議員ハ二十五歳以上ヲ以テ撰舉スヘキノ成規タルニ依リ常備徵兵ヲ言フモノ非ラスシテ至ク豫備徵兵中ノ者ヨリ議員撰舉致候節ハ該役ヲ免セラレ候儀ト心得可然哉將ヲ豫備後備ノ兩軍服役中ノ者モ同様コテ撰舉致候儀不苦儀ニ候哉

第四條 爰ニ女戸主アリ女子ノモシテ該長女子ヲ賞請ケ承祖戸主トナルモノアリ右ハ隠居セシ戸主五十歳内外ニ依リ徵兵免役ノ區別致シ可然哉
右件々相伺候也

〔指令〕 第一條 伺之通 第二條 第二豫備徵兵名簿ヘ記載スヘシ
第三條 豫備後備兩軍并第一第二豫備徵兵中ノ者モ同様撰舉致シ苦シカラス
第四條 隠居セシ女戸主五十歳内外ニ依リ徵集免役ヲ區別スヘシ

〔滋賀縣ヨリ陸軍省ヘ伺〕

本家ノ戸主年齢五十歳以上ニシテ老衰且多病等コテ活路ニ迫。末家ノ二三男或ハ兄弟等ヲ以テ徵兵適齡ノ者届出期限即チ九月十六日以前養子(嗣子)或ハ相續人ニ賞受候者ハ無論免役可相成モノニ候得共右日限以後ニ係ルモノハ免役難相成儀ニ候哉此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣止ムテ得ザル事情アリ本家ノ嗣子或ハ相續人トナル者ハ九月十六日以後ト雖モ免役ノ詮議ニ及フヘシ
但本文日限後ニ係ルモノハ其縣徵兵署ヘ出願ノ上同署ノ指令ニ應セシムヘシ

〔熊本縣ヨリ陸軍省ヘ伺〕

實男子幼稚又ハ孱弱ニシテ其實父年齢五十歳以上トナリ家事困難ナルヲ以テ他子ヲ養ヒ嗣子トス右養子徵兵適當ナルモ徵兵令第廿八條第四項嗣子ナキ者ノ養子ト同視シ國民軍ノ外兵役免除ニ屬シ可然哉此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣廢嫡ノ上更ニ定メタル養子(嗣子)ハ伺之通

〔福島縣ヨリ陸軍省ヘ伺〕

第一條 本年徵兵適齡ノ者戸籍面生年月誤謬ノ旨發見訂正ヲ出願スル者アリ右誤謬ノ証アリ訂正ヲ許可スルニ其年齡常備年期ノ第三年限内ニ在テハ徵收ニ應スヘキ勿論ナレトモ已ニ年齡經過ノ者ハ徵兵令第三十四條ニ準シ平時ニ於テ免役ト相心得可然哉

第二條 徵兵事務條例第六十一條ニ國民軍名簿ハ徵兵諸名簿調査ノ原簿ト爲スヘキヲ以テ之ヲ使府縣廳ニ備ヘ置其年齡二十歳ニ至ル迄ハ身上ノ異動アル毎ニ筆削ヲ加フト有之右ハ二十歳迄ノ者ノミヨリ廿一歳ヨリ四十歳迄ノ異動等ハ別ニ筆削ヲ加ヘズ使府縣廳之ヲ保存スルニ止ルモノニ可有之哉

右相伺候也

〔指令〕 第一條 已ニ年齡經過ノ者ハ其時々當省ヘ伺出何分ノ指令ニ應スヘシ
第二條 伺之通

〔大分縣ヨリ陸軍省へ伺〕

一官立公立學校生徒入學中徵兵適當ノ者徵集ノ儀徵兵令第三十條中へ明文無之候處本縣師範學校ノ儀ハ師範學校生徒ノ外豫備科ヲ設ケ師範學校豫備門ト唱へ學期ヲ三ヶ年トシ本科へ繰込候儀ニ付右生徒ニシテ徵兵適當ノ者ハ徵兵令第三十條徵集猶豫相成候儀ト被考候果シテ然ル時ハ第三十條第六項師範學校生徒ト見做スヘキ歟又ハ同條第七項公立中學校生徒ト見做シ可然哉
一豫備門生徒ニシテ師範學校ヲ履ス單ニ豫備科ノニ修業三ヶ年ノ學期（本縣ノ所定）ヲ卒業スルモノハ徵兵令第二十九條第六項公立中學校卒業生徒同條平時ニ於テ兵役ヲ免スノ部ニ繰込可然哉 右兩條相同候也
〔指令〕 第一項第二項 豫備門生徒ニシテ其學科ヲ卒ヘサル者ハ勿論既ニ卒業ノ者ト雖モ免役又ハ徵集猶豫ノ限ニ非ス

〔青森縣ヨリ陸軍省へ伺〕

管下縣立病院附屬醫學校ヲ置キ縣費生二十七名自費生二十三名ヲ募リ專門內外科藥劑科ニ途ニ分テ專門內外科ハ卒業程期三ヶ年專門藥劑科ハ卒業定期一ヶ年半定メ一ノ專門學ヲ卒ヘ候者ハ其卒業証ヲ與ヘ教育シ來リ候右卒業証ヲ與ヘ置キ候生徒ノ內徵兵適當ノ者ハ第四拾六號公布徵兵令改正條目中醫學卒業者ノ明文無之候得共本條目第二十九條中第六項ニ擬シ平時ニ於テ兵役免カレ、者ト心得可然哉此段相同候也
〔指令〕 伺之趣病院附屬醫學校ハ縣立學校ト難見認候條該校ニ於テ卒業セシ者ハ徵兵令第二十九條第六項ニ難準儀ト可心得事

〔山口縣ヨリ陸軍省へ伺〕

茲ニ戶主死シ其孤幼稚ナルヲ以テ其妻へ入夫ハ戶主トナシ遺孤ヲ以テ嗣子トシ各稱

養子トシテ其子本年徵兵適齡ニテ其養父モ亦五十歲未滿ナル者アリ過般嗣子トハ實子ノ限ルト御指令有之服役ニ就クヘキ儀ニ候得共此等ノ如キハ一般養子ノ比ニ非ヌ尙祖先血食ヲ絶テザルシ義務アルモノナレバ通常養子ト異ナルモノト見做シ即チ平時免役ニ屬スヘキモノト心得可然哉此段相同候也
〔指令〕 伺之趣昨十二年十月廿六日前既ニ嗣子ト定メタル者ニ非サレハ平時免役ニ難準儀ト可心得事

〔埼玉縣ヨリ陸軍省へ伺〕

改正徵兵令第七章第五十五條常備鐵ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨリ五月一日迄ニ入營スヘシ其營所迄ハ使府縣毎ニ最寄チ分チ戶長之ヲ引繼メ出ヘシトアリ右附添人ノ儀ハ便宜ニ依リ郡書記ヲ以テ換用候トモ不苦哉若シ然ラハ旅費ノ儀ハ定則ニ照準支給シ徵兵入費組込可然哉御指令相仰候也
〔指令〕 伺之趣徵兵入營附添人ノ儀ハ郡區書記ヲ以テ換用スルモ不苦右旅費ハ昨十二年大藏省乙第四十八號達第一條之通可心得事

〔栃木縣ヨリ陸軍省へ伺〕

甲家ニ所生ノ嫡男アリ固ヨリ以テ嗣子ト定ム又乙家ヨリ一子ヲ貰受ケ養ヒ以テ次男トナス既ニシテ其嗣子本年徵兵適齡ニ屬シ其父ハ五十歲未滿トス今之ヲ免役スルコ當リ改正徵兵令第二十八條第二項ニ依リ獨子ヲ以テ處スヘキ歟將テ次男（前ノ養子）アルガ爲メ同令第二十九條第一項五十歲未滿ノ者ノ嗣子ヲ以テ處スヘキ歟尙モ既ニ次男アリ其實嗣子之ヲ獨子ト稱スヘカラザルモノ、如シ若シ果シテ之ヲ獨子トナスベカラザルトキハ此ニ實生ノ嗣子トキモアリ一男ヲ他家ヨリ貰受ケ既ニ定メテ嗣子トナセシコ於テハ其養嗣子亦實嗣子ト權利ヲ同ウシ即チ獨子ト爲シテ可ナルヘシ若シ否ラザルト

其ハ前ノ養男實子同一ノ權利アルトシ其ノ權衡失スルコト似ク右一は一非ノ兩
 件何分御指令有之度此段相伺候也
 【指令】 伺之趣徵兵令第二十八條第二項ノ獨子ハ家ノ内外ヲ論ゼテ實兄弟ナキ嗣子
 指稱スルモノニシテ他ヨリ實ハ請ケタル養兄弟アリト雖モ獨子(嗣子)ノ稱ヲ變スル
 一ナシ尙不明瞭ノ儀モ候ハ、更ニ可同出事

陸 鹿兒島縣ヨリ陸軍省ヘ伺

元徵兵令參考第五十一條ニ當ル常備服役中養子約束出願ノ者取扱ノ儀ニ付本月八日電
 報ヲ以テ相伺候處一切不聞屆御指令相成然ル處右ニ反シ服役中養家離別實家へ復籍
 ノ儀願出候者有之右ハ無餘儀筋ニ付爲届出候迄ニテ可然哉此段相伺候也
 【指令】 伺之趣徵兵令第五十七條ニ照シ可取扱儀ト可相心得事

陸 千葉縣ヨリ陸軍省ヘ伺

一戸主年齢五十歳未滿ノ者養嗣子及ヒ弟ヲ以テ繼嗣ト定メタル者客年十月廿六日以前
 ニ係ル分ハ總テ徵集不致儀ハ曾テ本縣伺へ御指令相成候處其後同年十二月十六日附
 ナル中ハ徵兵令第廿八條第四項ニ依リ國民軍ノ外兵役ヲ免スル儀ト心得可然哉相伺
 候處伺之通ト御指令相成就ヲハ男戸主ニシテ年齢五十歳未滿ノ者養嗣子ハ同年十月
 廿六日以前ニ係ル分ハ徵集不致女戸主ニシテ年齢五十歳未滿ノ者養嗣子ハ右月日ヲ
 區分セテ徵集致候儀ニテハ少シク疑團ヲ生シ候ハ付如何相心得可然哉
 一男女ノ戸主ニ拘ラテ五十歳以上ニシテ事故アリ隱居シ文其死亡ニ其跡ヲ繼ケテ實男
 子ハ養嗣子トシテ戸主トナリタル者ハ九月十六日(客年)限リ十月廿七日以後ト雖

國民軍ノ外兵役ヲ免スル者ト相心得徵兵事務條例第二十四條及同第五十八條ニ依
 リ取扱可然哉 右相伺候也
 【指令】 第一項 女戸主ト雖男戸主同様五十歳未滿ノ者ハ養嗣子ハ十二年十月廿七日
 判以テ區分トス

第二項 伺之通

但徵兵支署ニ於テ名簿調製後免役ノ係異動ヲ生スルモノハ其縣徵兵署ニ於テ
 詮議ノ上處分スベシ

陸 千葉縣ヨリ陸軍省ヘ伺

一徵兵令第二十八條第一項ノ戸主ハ譬ハ夫死亡シ子女ナク無餘儀寡婦戸主トナリ
 ル後該戸主ニ入夫シ直ニ戸主トナリ或ハ戸主年齢五十歳前後ハス癡疾不具等ニ
 シテ實女無之他ヨリ嗣子實受直ニ戸主ト致シ候者ニテ徵兵適齡ノ者ハ名簿鎮臺へ送
 達以前ニ候ハ、徵兵令第二十八條第一項ニ依リ取調可然哉
 一戸主年齢五十歳未滿ノ者ニテ幼稚ノ時實受候養嗣子徵集方ノ義ニ付昨年十二月九日
 附ヲ以テ相伺候處同年十月廿六日前既ニ養嗣子トナセシ者ハ當省甲第二十二號達第
 一項ノ例ニ準スト御指令有之仍テハ年齢五十歳未滿ニシテ實子無之弟ヲ以テ繼嗣ト
 定メ其旨戸籍ニ登記有之右ハ昨年十月廿六日以前ニ係ル分ハ前同様御省達甲第二十
 二號御達第一項ノ例ニ依リ取調候儀ト心得可然哉
 右件々御指揮有之度此段相伺候也
 【指令】 第一項 寡婦戸主トナリタル後該戸主へ入夫シ直ニ戸主トナリタル者ハ免役
 ニ屬セズ其他ノ者ハ伺之通 第二項 伺之通

〔栃木縣ヨリ陸軍省へ伺〕

茲ニ徵兵年齡ヲ過キタル長男ヲ五十歳未滿ノ者ノ養嗣子ニ遣ハシ次男ヲ以テ更ニ我嗣子ト定メシ者アリ後其嗣子(即チ次男)ノ徵兵適齡ニ當リタル節彼ノ長男ヲ遣ハセシ養父ノ年齡既ニ五十歳以上トナルニ於テハ其嗣子(即チ次男)モ矢張一般ノ嗣子ト其權利ヲ同フシ改正徵兵令第廿八條及第廿九條ノ項目ニ照シ嗣子ヲ以テ無論免役致シ可然哉
右ハ昨年十一月廿二日附伺書中第六項文意明瞭チ欠キ候旨コテ御指令不相成依テ此段更ニ相伺候也(指令) 伺之通

〔石川縣ヨリ陸軍省へ伺〕

第一條 常備年期ノ第三年検査時限ヲ過キ兵籍脱漏或ハ徵兵調泄ノ儀發覺加籍等差許候者原々免役ニ適スル者ハ不問ニ指置可申候得共若シ徵募相當ノ者ニ在テハ第二條ニ備徵兵ニ組込可申哉
第二條 現今海軍水兵ニ服役ノ者ハ免役名簿中登記スル適條ナシ之ニ依テ徵兵令第二十九條第二項陸海軍生徒云々ノ條中へ組込登記スヘキ哉
第三條 徵兵令第三十條第一項海軍兵員云々トアルハ海軍省第ニ於テ水兵等徵募ノ布達等アリ當時ニ限ルヤ將テ其儀ナキ場合ト雖モ志願スルニ於テハ先ツ猶豫スヘキ哉
第四條 嗣子ニ在テハ養實其區分判然ニ候ヘハ承祖ノ孫ニ至テハ明文無之就テハ養實チ問ハサレ儀ナル哉
第五條 事故アリ五十歳未滿ノ戸主隠居シ女子相續ノ後入婿シタル養子ハ免役ニ屬スヘキ哉果シテ然ラハ通常五十歳未滿ノ養子ト權衡其當チ得ス如何取扱可申哉
第六條 輜重輪卒尺度ヲ定メストアリ其短尺ニ於テ制限ナキ哉

右條件相同候也

〔指令〕 第一條 常備年期ノ第三年検査時限後加籍外除ス者兵役免否ノ儀ハ其時々當省へ伺出シヘシ

第二條 第二條備徵兵名簿ニ記載スヘシ

第三條 海軍省ノ布達ニ由リ已ニ願書ヲ上呈セシ者ニ限ル

第四條 徵兵令中承祖ノ孫ト掲ケルハ凡テ實子ヲ指稱ス

但養承祖ノ孫ニシテ養祖父年齡五十歳以上ナルハ徵兵令第廿八條第四項ノ例ニ準ス

第五條 免役ニ屬セズ

第六條 短尺ニ於テ制限ナシ

〔群馬縣ヨリ文部省へ電報伺〕

學務委員ノ選舉被選人ハ教導職コテモ不苦哉

〔指令〕 學務委員選舉被選人ハ教導職コテモ苦シカラス

〔滋賀縣ヨリ文部省へ伺〕

(電報)

當縣長濱講習學校ノ教科ハ縣立初等師範學科ト同一ナルニ因リ講習學科卒業ノ者ハ師範學校卒業ノ者ト同シク小學教員ニ採用イカシ度此段相伺候即今差迫儀有之ニ付至急御指令アリシ

〔指令〕 其縣長濱講習學校ノ教科縣立初等師範學科ト同一ナルハ長濱講習學校卒業ノ者ハ公立小學教員ニ採用シ苦カラス

〔愛媛縣ヨリ文部省へ伺〕

(電報)

手習讀物十露盤ノ内一ツノミヲ教ユル私學ハ專門學校ト目スルカ又ハ何ト目スカ年報
調ニ差支ニ直ク指令アレ
〔指令〕 手習讀物十露盤ノ内一ツノミ教ユル私學ハ全ク普通學科ノ初歩ヲ授クルモノ
ナレハ小學校ノ正格ニ合サルモ亦小學校ノ種類ト心得ヘシ

〔長野縣ヨリ文部省ヘ伺〕

當縣師範學校教則ハ二ヶ年間ノ修業ニ至ルノ課程ニ候處各小學校教員闕乏ノ
際一期(即六ヶ月)以上ノ課程ヲ卒業スル者ハ一時教員ニ派出在勤爲致師範學校ノ都合
ニヨリ漸次歸校セシメ必ス次業ヲ修メシムルノ規則ヲ以同濟相成居候處右一期以上卒業
業ノ證ヲ有シ教員ニ從事致居候モノハ教育令第卅八條但書教員ニ相應セル學力ヲ有ス
ル云々ノ條ニ相當ト相心得可然哉右ハ改正徵兵令ニ干涉モ有之相伺候條至急御指揮相
成度候也

〔指令〕 同之趣其縣師範學校一期以上ノ課程ヲ卒業シ一時教員ニ從事候トモ漸次歸校
セシメ必ス次業ヲ修メシムル者ニ候ヘハ教育令第卅八條但書ニ據ルヘキ者ニ非サル
儀ト相心得事

〔岩手縣ヨリ文部省ヘ伺〕

教育令第三十七條教員ハ男女ノ別ナク年齢十八年以上ニ有之然ルニ岩手師範
學校ニ於テ年齢十八年未滿ト雖モ試験合格ノ者ハ夫々補助金ヲ附與シ教員タルヘキ
年限決定シ入學爲致既ニ卒業或ハ現今入學ノ者モ有之右等ノ如キ既往ニ屬スル分ハ都
テ年齢未滿ト雖モ苦シカカシ義ニ可有之哉至急御指揮相成度此段相伺候也
〔指令〕 書面伺ノ趣年齢十八年未滿ノモノヲ教員ニ任用スルハ不相成儀ニ候事

但年齢十八年未滿ノモノトモモ教員ニ任ズルヲ授業生若シテ助手等名義ヲ
以テ授業ヲ助ケルモノハ不苦候事

〔大坂裁判所ヨリ司法省ヘ伺〕

新聞紙上ニテ外國皇孫ノ榮譽ヲ害スヘキ行事ヲ摘發公布スル者ハ律ニ正條ナキヲ以テ
如何處分スヘキ哉
〔指令〕 誹謗律第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金十五圓
以上七百圓以下ニ依テ擬律處分スヘシ

〔深川區ヨリ東京府ヘ伺〕

昨十二年甲第五拾七號營業規則御布達以降各商業ノ内仲間申合規約ヲ結組合設立致候
儀ハ依願御開置相成候儀ニテ右ハ商業上取締モ相立良法ト被考候間往々新規開業ノ者
規約ヲ不致シテ出願之向ヘハ組合設立有之云云ヲ申論可成加入可爲致候得共若不服ヲ
唱ヘ獨立營業致度旨申立候節ハ固ヨリ相對上ノ義強テ相勸メ候筋ニ無之候間請願ニ任
セ鑑札下ケ渡候心得ニ候得共爲念心得方相伺申候何分ノ御指揮相仰候也
〔指令〕 書面伺之通リ

〔神田區ヨリ東京府ヘ伺〕

地方稅未納ノ者處分方ハ明治十年第七十九號公布ニ準據可取計ハ勿論ノ義ト存候得共
疑團ノ廉々有之候ニ付左ノ條相伺候
第一條 地方稅ノ内月稅ノ者假令ハ玉突場營業稅未納ノ節處分之義ハ營業ヲ停止シ其
器物ヲ公賣シ尙ホ不足ト生ヌルトモ他ノ財產ニ不及候テ可然哉

第二條 遊藝營業人(遊藝稼人)ノ如キ之(準ス)税金未納ノ節處分ノ義ハ鑑札取上ケ營業ヲ停止スル迄ニシテ他ノ財產公賣不致義ト相心得可然哉

第三條 營業稅雜種稅ヲ未納ノ者處分方ノ義ハ營業ヲ停止シ販賣品アレハ之ヲ公賣シ次ニ其器物ニ及キテ尙不足ヲ生スル他ノ財產コ不及候テ可然哉

第四條 前條ノ税金未納ノモノ處分公賣手續ハ客歲十二月下谷區長ヨリ戶數割未納ノ者處分方御指令ニ基キ取扱候テ可然哉

右ハ目下指掛條件有之候ニ付至急御指揮有之度此段相同候也

〔指令〕 書面第一條ヨリ第四條ニ至ル都テ同ノ通可相心得事

〔深川區ヨリ東京府へ伺〕 絶家財產處分ノ件

客年八月二十七日附テ以獨身之戶主死失シ親戚無之ニ付差配人及ヒ知己ノ者コ於テ葬送等夫々取計多少消費セシテ以テ死者ノ財產ヲ賣却シ其費用ニ充テ尙ホ剩餘アラハ將來供養料トシテ寺院ニ寄附致シ度旨死者之遺言有之由ニテ地請人及ヒ差配人連署申出候節ハ調査ノ上開届不苦哉云々相同候處同年十月十三日附テ以テ書面伺ノ趣裁判所ノ處分ヲ可受儀ト可相心得旨御指令有之右裁判所ノ處分ヲ乞フコトハ本人共ヨリ東京裁判所へ願書爲差出區役所ニテハ該書へ例シ通區長與印致候迄ニテ可然哉又ハ區役所へ出願爲差處分ノ備區長ヨリ東京裁判所長へ問合候順序ニ候哉心得方決兼候間何分ノ御指揮有之度目今處分申出候者有之候間此段至急相同候也

〔指令〕 書面伺之趣ハ前項ノ通可相心得事但與書ニ不及候事

〔日本橋區ヨリ東京府へ伺〕 公立小學教員一ケ年皆勤手當ノ件

各公立小學教員ノ内一ケ年皆勤ノ者有之爲獎勵校費ノ内ニ以テ月給三分ヲ爲手當給

與致度校務委員ヨリ申出候右ハ開届候上具狀可致心得ニ候得共爲念此段相同候也

〔指令〕 伺ノ通リ

〔荏原郡長ヨリ東京府へ伺〕 地稅其他不納處分手續ノ件

第一條 茲ニ地稅國稅ノミ上納シ明治十一年度此費地租六分一並十二年度地方稅地租七分一第一期ヨリ第二期ニ至ル不納者アリ右ハ國稅ニ無之ト雖モ從前地ニ課スル民費及ヒ地方稅ノ儀ニ據リ同第一條手續ヲ以テ處分可致儀ト心得可然哉

第二條 地稅及ヒ地ニ課スル地方稅等不納ノ節不納者所有地悉皆公賣ヲ行ハサルモ不納額ニ充ツヘト認ムルトキ酌量シテ所有地ノ内若干ヲ處分ナスモ不苦哉又ハ右等ニ關係セス其納期ニ隨ヒ田畑宅地雜地ノ二途ニ區別シ悉ク處分可致儀ト心得可然哉

第三條 前條ニ相反シ不納者甲村ニ居住シ而シテ甲村乙村ノ土地ヲ所有ス然ルニ甲村ノ地稅其他共上納シ乙村ノ地租其他ハ納付セス依テ之レカ處分ヲナスコ當リ乙村ノ地所ノミコシテ不納額ニ未滿此場合ニ於テハ甲村ノ地所ヲモ處分ナスコ得ヘキカ明治十二年第七十九號公布第一條ニ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル財產ヲ公賣シテ徵收スヘキ云々トアリ依之觀之甲村ノ地所處分ヲナシ得ヘカラサル儀ト被相考右ハ既ニ義務ヲ盡シ終リタル地ニ付左モ可有之乍然退テ一方ヨリ見ルルキハ其所有主ニシテ他ニ義務ヲ盡サハル處アレハコソ爲ニ甲村ノ地處ニ押シ及ホスモ敢テ不當ニ無之儀ト被考候尤處分ヲナス程ノ者ニシテ如斯ノ義無之等ナレハ或ハ全ク之ヲトセス故ニ疑團相生シ候ニ付何レヲ直理トシ處分可然哉

第四條 前條々ノ如キ不納者處分ノ際協議費(地ニ課ス)不納アレハ公賣ノ剩餘金ノ内ヲ以テ直ニ主任ノ戶長へ交付可然哉

右ハ目下差掛候條件有之且ハ將來取扱心得共併テ相同候條至急御指令有之度候也

〔指令〕 伺ノ趣左ノ通り心得事

第一條 伺之通 第二條 其賦課シタル地所ハ悉皆公賣スヘシ

第三條 賦課シタル財産ヲ公賣徵收スル規則ニ付其賦課セサル地所ヲ推及スルヲ得

第四條 協議費ノ不納ハ裁判官ニ出訴其處分ヲ受クヘシ

〔深川區ヨリ東京府ヘ伺〕 養兒預メ主ヘ養育料支給ノ件

當區内養兒之義里ニ相預ケ候爾來養育料(俗ニ里扶持ト唱フ)トシテ一ヶ月金壹圓五拾錢宛支給候處現今米價ハ勿論薪炭ノ如キモ實ニ騰貴ノ極度ヲ相究該兒養育難澁ノ趣ヲ以テ増金云々願出ル者モ有之ニ付篤ト其情實取調候處素ヨリ薄身ナガラ養育之志操チ異ニスルコト無之候得共到底物價高直ノ折柄勉テ節儉ヲ爲スト雖ヒ糊口ニ乏敷其情不
得止儀ニ相聞候間特別ノ御評議ヲ以テ當分ノ内育兒壹人壹ヶ月金廿五錢増加シ金壹圓七拾五錢ヲ以テ本月分ヨリ支給致シ度此段相同候也

〔指令〕 書面伺ノ通り

東京神田區神田五軒町十八番地 弘令社

社主 小笠原美治

明治十三年三月新刷

編輯 同人 印刷 吉野朝計

大坂心齋橋通備後町角

專賣書肆 吉岡平助

大日本圖書會館藏書

七	三		
〇	四	三二	二
冊	號	架	函

第二千九十七號

共七十冊